

学力調査等の状況

・国の学力調査については、ほとんどの教科・領域において、本校の平均正答率は東京都・全国の平均正答率を上回っている。しかし、筋道をたえず、理由を説明する記述問題や事物を比較し、観点を明確にして分析・解釈する記述問題などは東京都・全国の平均正答率を下回った。
 ・国の学力調査の生徒質問紙の回答からは、家庭学習の時間も長く、目標をもって取り組んでいる生徒の割合が高いことが窺える。その一方、目がやや乏しく、失敗を恐れチャレンジ精神に欠ける生徒の割合も少なくない。ICTの活用については、意見交換や調査のために授業でICT機器の頻度が少ない。また、児童・生徒の学力向上を図るための調査からは、自分の考えを積極的に相手に伝えたり、他者の異なる意見を理解したりする生徒の割合が若干少ないことが窺える。

見えてきた課題

・各教科・領域において一定の基礎・基本を習得しているが、結果から一般的な法則を導き出すことやグラフや図・文章などの資料を読み、分析分の考えを述べたり、根拠をもとに分かりやすく説明したりすることに課題がある。言語活動や観察・実験などの活動の質を高めながら、習得・活学習サイクルの活用を一層図ることが求められる。さらに、ICT機器を効果的に活用し、互いの意見を共有したり、比較・分類・整理したりすること解を深められるようにする。また、自己肯定感を高めるため、学校生活の中で互いを認め合い、自分に自信をもてるような場面を増やすことも課題

授業をデザインする8つの取組について

ICT機器の活用	タブレット端末を利用し、必要な情報を収集し選択する情報リテラシー能力を育むとともに、フォームボード等で意見交換を行い、他者の考えに触れ自分の考えを深められる場面を増やす。
見通しをもたせる導入	学習の流れや本時の目標を提示するとともに、導入で生徒の興味・関心を高められるよう課題の提示する。
価値ある対話の共有	グループ活動や発表の機会、ICT機器の効果的活用により、生徒一人ひとりが互いの考えを共有し、討・分類・統合・関連付けし、対話的な学びの中で理解を深められるようにする。

各教科における課題を改善するための指導の重点

	年度当初に設定した重点	第1学年	第2学年	第3学年
国語科	<ul style="list-style-type: none"> 思考を深め、共有するために、ICT機器を活用する。 伝える力を高めるために、情報を取り出す授業を実施し、言語活用能力を育てる。 視覚資料を用いて、幅広く個々の習熟度や特性に応じ、多様な段階にある生徒の学びを支える。 	<ul style="list-style-type: none"> クロムブックを用いて作文指導を複数回実施する。加除修正が容易にできるため、生徒にとって紙で書くよりも抵抗感が少ないと思われる。また、クロムブック上で生徒同士の相互評価を行う。 伝える力を向上させるために、スピーチ発表を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えをもち、ICT機器を活用して意見交換や全体での発表を行い、互いの意見を比較・検討・関連付け等を行い、理解を深められるようにする。 メディアの特徴を生かし情報を収集し、比較・分類を行い、情報を整理する力を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 伝える力を高めるために、個人グループの交流を経ることが移る ICT機器の機能を活用して、えを比較できるようにする 各授業で振り返りの時間を、習の流れを確認しながら、フ適時して理解を深める。
社会科	<ul style="list-style-type: none"> 歴史史料や地理のグラフなどを用いて、読み取り及び意見交換などを行い、深い学びにつなげていく。 ニュース、新聞などを利用し社会的事象に対する興味関心をもたせるようにしていく。 思考力・判断力・表現力向上のため、社会的事象に対して、既習事項と関連させて理解を深め、自分なりの考えを持てるように指導していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 歴史史料や地理の写真資料などを用いて、読み取りを行っている。ICTを活用して、振り返りの時間を確保し、仲間の意見から深い学びにつなげられるよう指導する。 ニュース、新聞などを既習事項とつなげる機会をつくるようにしていく。 思考力・判断力・表現力向上のため、社会的事象に対して、既習事項と関連させて理解を深め、自分なりの考えをもてるよう、考える機会を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> グラフや歴史史料の読み取りは毎回の授業で取り入れているが、その提示方法や発問の方法を工夫することで、より多角的に考察できるように導きたい。 時事問題を定期考査に出題しているため、目を向ける機会はつくれている。次年度は授業内でも取り上げる予定である。 毎授業生徒が自分で記述する発問を設けている。今後はこれを発表し合う機会も充実させていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 情報メディアの特性を踏まえて、から社会事象に関する様々な情報集し、ICT機器の思考ツールを用付けを行い整理し、共有する。他換の中で多面的・多角的に考察しえを深め、発表したりする場面を力・判断力・表現力を増やす。
数学科	<ul style="list-style-type: none"> ICTの活用(Navimaなど)の活用により、個々の習熟度に合わせた問題選択の時間の確保することで、スパイラル学習を意識させ学びを深める時間を確保する。 計算問題練習は短時間で取り組むことに合わせ、思考を要する問題への取り組みを増やし、特に図形分野において多角的な見方の出来る問題を設定する場面を増やす 生徒が見通す・教師が教える・自分の考えを表現する・対話によって考えを深める・単元全体を振り返る等、それぞれの学習場面に適切に活用し、より効果的な学習ができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ICTの活用(Navimaなど)の活用により、個々の習熟度に合わせた問題選択の時間の確保を増やすとともに、関数や図形分野における視覚的な理解を促していく。 また計算問題練習を短時間で取り組むことに加え、思考を要する問題への取り組みを増やし、特に図形分野においては、図形に親しみ感覚を養いながら多角的な見方の出来る問題を設定する場面を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> ICTの活用(Navimaなど)の活用により、個々の習熟度に合わせた問題選択の機会を増やし、グラフソフトなどを用いて関数への理解を深め、感覚的な閃きを共有および論証する時間の充実を図る。習熟度に応じた表現が行える教材の活用を充実させる。また計算問題については短時間での取り組みを継続する。 	<ul style="list-style-type: none"> 習得・活用・探究の学習を行って科の特性に応じた見方や考え方を考・判断・表現を行い、その上で、現するために、学習場面を組み果的な授業をデザインしていく。 す・教師が教える・自分の考えをによって考えを深める・単元全体それぞれの学習場面に適切に活的な学習ができるようにする。
理科	<ul style="list-style-type: none"> 自然の事物・現象についての理解を深め、観察・実験を行い科学的に探究する力を養うことなどを通じて、基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を図る。 Chromebook等を活用し、考察を共有・発表することなどを通じて、思考力・表現力の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 自然の事物・現象についての理解を深められるように、実験レポートをもとに考察やまとめを行う。授業内容をノートにまとめるなど、基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分自身がどのように考え理解したかなどを他と共有する取り組みを増やし、理由を考え表現し、再考できる学習場面から、意見共有や比較、言語活動などの質の向上につなげていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 自然の事物・現象についてを深められるように、授業活用し、考察やまとめをICTを活用して生徒の興味、理解を深められる。礎的・基本的な知識・技能定着を図る。

外国語科	<p>指導法の改善を通して、学びへの意欲を向上させ、基礎基本を確実に定着させる。また、「使える英語」に焦点をあてた4技能を軸とした自己表現活動の充実を図る。具体的には、デジタル教科書の活用、帯活動の充実、パフォーマンステストのフィードバックを効果的に行っていく。</p>	<p>・本時の目標提示や振り返りの設定、デジタル教科書を活用することで、授業内容における生徒の関心を高める。 ・帯活動を通じて、会話のやりとりを充実させ、自己表現力の向上を図る。 ・パフォーマンステストを実施するなかで、フォームを用いて生徒同士で意見交換をさせ、一人一人の考えを深め、自己調整能力を育む。</p>	<p>・話す、聞く、読む、書くの4技能に加え、即興力の向上を目的とした帯活動の充実を図る。 ・ディベートやQandA、絵を見ての会話のやりとりなど、即興性のあるパフォーマンステストを実施する。 ・生徒自身がデジタル教科書を活用して発声練習できるようにする。</p>	<p>・クロームブックのスライドを使用した、デジタル教科書を使用した、的にわかりやすく意欲を高められる。 ・帯活動において、やりとりや、表せ、既習事項の定着や即興力の、生徒1人1人がクロームブックを活用する現場を設ける。その中で表現の共有し、生徒自身の表現力を高めたりさせる。</p>
------	---	--	--	--

各教科における課題を改善するための指導の重点

	年度当初に設定した重点	第1学年	第2学年	第3学年
音楽科	<p>・歌唱における基本的な技術習得のために、日々の授業に歌唱活動を積極的に取り入れる。 ・音楽を鑑賞し、自分の考えを文章で表現する力を身につけさせる。 ・仲間と協力して、音楽を作る楽しさを感じられる授業を展開する。</p>	<p>・授業中では、元気よく合唱する雰囲気が出来ている。歌に親しみ、生徒一人一人が前向きに歌に取り組める環境づくりや声掛けを継続する。 ・音源をGoogle Classroomで共有したり、合唱練習をクロムで撮影し振り返りに生かしたり、ICT機器を活用した授業を行っている。</p>	<p>・普通の授業において継続的に歌唱の活動を取り入れ、歌唱の技術力を高める指導を積極的に行う。 ・音源をGoogle Classroomで共有したり、合唱練習をクロムで撮影し振り返りに生かしたり、ICT機器を活用した授業を行っている。</p>	<p>・校内行事や儀式においてとなるような合唱が出来るよう歌唱の技術を身につけさせる。 ・音源をGoogle Classroomで合唱練習をクロムで撮影し振り返りに生かしたり、ICT機器を活用した授業を行っている。</p>
美術科	<p>・制作を通して、テーマや自分のイメージに沿って制作する技術の向上、物事を計画的に進める力を身に付ける。 ・美術品や制作した作品の鑑賞を通し、自分の考えを言葉で表現する力を身に付ける。また、友達との作品の技術やアイデアの良さに気づき、制作過程の反省や次への意欲へとつなげる。</p>	<p>・ICTを活用して授業を行う。実物投影機で作品をスクリーンに映し出し全体で共有したり、プリント等の解説を行ったりする。 ・アイデアを出す時にクロムブックを活用し、生徒の活動の手助けをする。 ・鑑賞を通し、制作過程を振り返り、次回への意欲につなげる。</p>	<p>・ICTを活用して授業を行う。実物投影機で作品をスクリーンに映し出し全体で共有したり、プリント等の解説を行ったりする。 ・アイデアを出す時にクロムブックを活用し、意見交換・全体発表などを行い、考えを深められるようにする。 ・鑑賞を通し、制作過程を振り返り、次回への意欲につなげる。</p>	<p>・ICTを活用して授業を行う。実物投影機で作品をスクリーンに映し出し全体で共有したり、プリント等の解説を行ったりする。 ・アイデアを出す時にクロムブック互いの考えを共有し、対話的な理解を深められるようにする。 ・鑑賞を通し、制作過程を振り返り、意欲につなげる。</p>
保健体育	<p>・基礎的、基本的な技能を定着、向上させるために個に応じた指導法を展開する。 ・心身の健康保持増進のため、長距離走等を計画的、継続的に取り入れるとともに、体力テスト等の結果を活かし、保健体育の授業の充実を図り、体力向上に努める。</p>	<p>・基礎的、基本的な技能の定着を図り、規律を確認し、スモールステップで個に応じた指導を行う。 ・種目に応じたICT機器で撮影を行い、振り返りに活かす。また、保健の授業でもICT機器を活用し、他者との意見交換を活かす。 ・心身の健康保持増進のため、体力テストの結果に基づき、継続的な取り組みを行い、授業の充実を図り、体力向上に努める。</p>	<p>・基礎的、基本的な技能を定着、向上させるために個に応じた指導法を展開する。 ・マット運動などICTの機器で撮影。技能を身に付けるため意見交換や思考する機会を増やす。 ・心身の健康保持増進のため、長距離走等を計画的、継続的に取り入れるとともに、体力テスト等の結果を活かし、保健体育の授業の充実を図り、体力向上に努める。</p>	<p>・基礎的、基本的な技能を活用し、させる中で、個に応じた指導を行う。 ・種目に応じたICT機器で撮影を行い、情報を収集し意見交換を行う。 ・心身の健康保持増進のため、体力テスト等の結果を活かし、継続的な取り組みを行う。仲間との連携から達成感を味わい、実や体力向上に努める。</p>
技術家庭科	<p>・ICTを活用して授業を行う。スクリーンに実物投影機を使って実演、例示、プリント等の解説を行う。 ・Chromebookを活用しウェブ上で双方向のプログラミング学習を進めていく。 ・PCのオーディオ、画像を使い授業の集中力をあげる。 ・家庭学習の課題としてクロムブックで写真を撮り、その写真を共有することで生徒同士が課題の理解を深める。</p>	<p>・ICTを活用して、資料の提示を行ったり、意見交換を行ったりすることで理解を深めさせる。 ・家庭学習の課題としてクロムブックで写真を撮り、その写真を共有することで生徒同士が課題の理解を深める。</p>	<p>・ICTを効果的に活用して、ものづくりに関する実習等の結果を整理し、考察したことを共有し、意見交換し、理解を深めさせる。 ・フォームを使いアンケートをとり、それを共有することで生徒同士が課題の理解を深める。</p>	<p>・生活や社会における様技術との関わりの中で活用して意見交換を行ったり説明したりする学習実させる。 ・作品を製作する過程で見合うことで制作意欲、よい作品にする。</p>
総合的な学習の時間	<p>・体験的な学びの中で、生徒自身による課題設定と振り返りを行う。自ら学んだ成果や過程を意味づけ、評価することを通し、次の学びに生かせるようにする。</p>	<p>・「自分を知る、周りを知る、つながる」を学年のテーマに、構成的グループエンカウンターを行い、自己理解を深めるとともに、自分に自信をもち、互いの考えを認め合える機会を増やしていく。 ・職業インタビューなどの取り組みでは、自分で課題を設定し、ICT機器を活用して調査・情報の共有・発表など探究的な学びに重点を置く。</p>	<p>・「働き、共に支え合って 生きることを学ぶ」を学年のテーマに、体験的・探究的な学びを充実させる。キャリア教育については、職場訪問などの取り組みにおいて主体的に取り組めるよう指導するとともに、ICT機器を活用して情報の共有・発表を行う。また、移動教室の取り組みでは、各自課題設定・探究を行うとともに、体験活動の中で協働して課題を解決できるようにする。</p>	<p>「自分の生き方を見つける」テーマに、教科横断的・探究心、社会の中で働くことを具し描き、自己の進路と結び付けようとする。</p>
特別の教科 道徳	<p>・問題解決的・体験的な学習を取り入れ、議論や発表などの活動を通して、多様な見方・考え方に接し自己の生き方について考えを深めさせ、道徳的な判断力・心情・実践意欲と態度を育てる。</p>	<p>・体験的・問題解決的な学習をさらに取り入れ、議論や発表を通じて考えを深め、自他の良いところを知る、自他の生命を尊重しようとする心を育てる。また、ICT機器を活用し、意見交換や全体での共有を図り、多様な見方・考え方に触れられるようにする。</p>	<p>・体験的・問題解決的な学習をさらに取り入れ、ICT機器を効果的に活用する授業を行う。議論や発表を通じて対話的な学びの中で考えを深め、互いに高め合い、信頼を深め、よりよい人間関係を築けるようにする。</p>	<p>・体験的・問題解決的な学びを取り入れ、ICT機器に活用し、グループでの発表を通じて将来の生き方を見つめ、役立とうとする心を育てる。</p>

各教科における課題を改善するための指導の重点

	年度当初に設定した重点	第1学年	第2学年	第3学年
特別活動	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒相互が協力しあい、(人間関係形成)、自らの役割(自己実現)や責任を遂行する活動等を意図的に計画し、自主・自立・自治を営む力の発達を促し、望ましい集団を育てるよう努める。 ・生徒が意欲的に参加し、達成感や成就感が得られる学校行事を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学級活動・生徒会活動・学校行事を通じて、互いに意見を交わし協力し合う場面を増やす。また、課題を意識し自分の役割を果たし、自分に自信がもてるよう取り組ませる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学級活動・生徒会活動・学校行事において、主体的・対話的に取り組み、互いに高め合う人間関係が築けるようにする。また、集団の一員として自分の役割を果たし、社会に参画し、自己有用感が高められるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学級活動・生徒会活動において、各々が課題を解決ができるよう主体的・取り組ませる。その中で、を深め、社会の中でどの実現していくかを考え、道切り開けるようにする。

二中学校



立てて考
自己肯定感
を使用す
ために質問



を行い、自
用・探究の
により、理
題である。



やジャム

を工夫す

比較・検



.

ペアワークや4
ら全体発表に
、他者との考
必ず取り、学
イードバックを

調査や諸資料
報を効果的に取
いて比較・関連
者との意見交
したり、自分の考
曾やし、思考

いく中で、数学
を働かせ、思
深い学びを実
々わせて、より効
子どもが見通
表現する・対話
を振り返る等、
用し、より効果

いての理解
プリントを
予う。また、
味関心を高
ようにし、基
能の確実な

各校の授業改善に向けて、**授業をデザインする**
に重点的に取り組む視点を3つ設定し、学校全
載する。
※ICT機器の活用の活用に関しては、必ず取り
【参考】指導力向上リーフレット、町田市スタ

学力調査等の状況を踏まえ、見えてきた学校全体の課題を改善する
ため、各教科の指導の重点を学年別に記入してください。

黒画面→管理共有→管理教員→令和4年度→授業改善推進プラン
→授業改善推進プラン(〇〇科).xlsx

導入を工夫し
りすることで視覚
る指導を行う。
現活動を充実さ
向上を図る。
5用し、自己表
)仕方や意見を
りたり、考えを深



下級生の手本
に、授業内
まる。
共有したり、
り返りに生か
え業を行って

物投影机で作
で共有したり、
5。
ックを活用し、
びの中で

戻り、次回への

中間とともに応用

戻りに活か
活用し、必要な

テストの結果に
り組みを実施す
わせ、授業の充

々な事象を
察し、ICTを
、考えを深
習活動を充

作品を互い
を高め、より

を学年の
的に取り組
体的に思い
けて考えられる

に学習をさ
を効果的
り議論や全
えを深め、
、社会の中
てる。



・学校行事
・捉え、問題
・対話的に
・自己理解
・ように自己
・経路を自ら

8つの取組の中から特
全体で取り組む内容を記

組む。

スタンダード授業改善シ-